

実施日：令和5年12月4日（月） 3校時…3年1組、4校時…3年2組	
領 域：教科（家庭科）	
取組名：地域に暮らす高齢者との関わり	
対 象：3年生	実施場所：教室
ア ねらい 高齢者の身体的な特徴について疑似体験を通して理解し、地域に暮らす高齢者に対して人権を尊重した関わり方を考えさせる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケートの結果をもとに、高齢者（定義：65歳以上）と関わる頻度や印象など、生徒の意見を共有する。 ・ 高齢者疑似体験を通して、その身体的特徴を理解する。（グループワーク） <ul style="list-style-type: none"> ○手先の不自由さ…手袋を二重履きにし、日常の動作を行う。 ○視覚の不自由さ…曇ったゴーグルを着用し、字を読み書きする。 ○聴覚の不自由さ…カット綿を耳栓にし、周りの人と会話する。 ・ 高齢者疑似体験を行ってみて、感じたことや気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ○筋力や五感の衰え ○認知症など認知力の低下 ・ これから高齢者とどう関わるか、ワークシートにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者（介助される側）の気持ちを尊重する。 	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 生徒の活動の様子や感想などを学年通信や学校だよりなどで家庭・地域に伝え、高齢者との関わりにおいて実践できるようきっかけづくりを行う。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修として担当教科に関わらず教職員が授業参観形式で参加し、事後研修で意見や改善点などを授業者にフィードバックする。 ・ 主体的・対話的な深い学びを大切にし、体験活動やグループワークなどで自分の考えや気付きをお互いに伝えあうコミュニケーションの機会を設定する。 ・ 授業内での行動観察や意見発表、またワークシートに記入した感想などから評価する。また、教科横断的な取組として、道徳では同じ高齢者の家族との関わりをテーマとした「一冊のノート」を連携して行い、高齢者に対して人権を尊重した考えが深められたかをみとる。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中のグループワークの観察 ・ ワークシートの点検、評価 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑似体験を行うことで、人権感覚を磨くために不可欠である「相手の立場に立つことができる」、「想像することができる」というポイントを押さえることができた。 ・ 高齢者疑似体験を通して、高齢者を介助するときには手助けが必要であることを実感し、自分でできることを大切にしたい支援の方法や相手を思いやる言動を考えることのできる生徒が増えた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見発表の中で相手を支援したい思いはもっているものの「～してあげる」と表現している生徒も見られた。高齢者を含め多様な人々が暮らす地域・社会において、様々な立場の相手を尊重した言動や人権意識がもてるような継続的な指導が必要である。 	